

令和 8 年度しょうけい館運営事業計画案

目次

I. 令和8年度しょうけい館運営事業予算（案）	1
II. 運営の基本的考え方	2
III. 個々の事業についての計画案	
1. 展示関連事業	
（1）企画展	2
（2）テーマ別展示	3
（3）証言映像上映	4
（4）3館連携企画展	4
2. 資料保存関連事業	
（1）資料寄贈	5
（2）資料の購入	5
3. 教育啓発関連事業	
（1）次世代の語り部事業	5
4. 情報センター関連事業	
（1）データベース・検索システム	5
5) 普及・広報事業	
（1）ホームページ	6
（2）しょうけい館広報誌	6

I. 令和8年度しょうけい館運営事業予算（案）

	R7 年度予算	R8 年度予算案	対前年度比
総額	194,728 千円	177,780 千円	△16,948 千円
(内訳)			
運営経費	98,605 千円	98,452 千円	△153 千円
人件費等	22,640 千円	23,931 千円	1,291 千円
管理諸費等	75,965 千円	74,521 千円	△1,444 千円
事業経費	83,549 千円	68,441 千円	△15,108 千円
人件費等	28,837 千円	30,136 千円	1,299 千円
資料収集等関係費	13,297 千円	12,696 千円	△601 千円
展示保守等経費	3,309 千円	2,060 千円	△1,249 千円
運営要員経費	4,200 千円	4,200 千円	0 千円
企画展等製作経費	10,593 千円	2,814 千円	△7,779 千円
小中学生用展示解説書製作経費	253 千円	253 千円	0 千円
地方展の開催経費	3,344 千円	3,479 千円	135 千円
若年世代来館促進経費	7,191 千円	950 千円	△6,241 千円
資料データベース更新経費	8,124 千円	8,124 千円	0 千円
証言映像収録費	0 千円	0 千円	0 千円
語り部育成事業経費	0 千円	0 千円	0 千円
語り部活動経費	3,126 千円	2,504 千円	△622 千円
広報・催事用グッズ作成経費	1,275 千円	600 千円	△675 千円
消費税	12,574 千円	10,887 千円	△1,687 千円

令和7年度補正予算（令和8年度に繰越のうえ執行予定）

総額	13,351 千円
事業経費	12,137 千円
証言映像収録費	4,018 千円
展示用図録制作経費	8,119 千円
消費税	1,214 千円

II. 運営の基本的考え方

- ・令和7年度は、戦後80年をキーワードに戦争・平和に関する世間の関心が一気に高まり、当館でも記念事業の展示やイベントに多くの来館者がお越しいただくなど盛り上がりを見せた年となりました。メディアや世の中の話は、昨年夏をピークに秋以降は沈静化した感がありますが、当館にとっても重要な1年となりました。
- ・令和8年度は、「昭和100年」や「しょうけい館開館20周年」の年であります。新たな事業を組んでの対応は難しいのですが、今年度の活動実績で得た知見等を活用して、効率的かつ効果的な事業運営を計画、実施してまいります。
- ・また、数年来増加傾向にある団体見学者への対応を来年度はさらに進め、学校教育支援や生涯学習の役割を担う施設としての機能を強化していきます。
- ・さらに、数年前より進めている改正博物館法の改定の精神を意識した活動について、関連博物館や地域との連携強化をさらに図っていくなど、時代に即したニーズに迅速に対応していくことを目指します。

III. 個々の事業についての計画案

1. 展示関連事業

(1) 企画展

- ・令和8年度は、以下のサイクルで企画展を実施する計画です。

春の企画展 3月～5月

新企画 展示テーマ「戦傷病者と結核」(令和7年度分)

夏の企画展 6月～8月

新企画 展示テーマ「戦傷病者就労への道」(仮)

秋の企画展 9月～11月

定例展 展示テーマ「青年 武良茂(水木しげる)と戦争」

冬の企画展 12月～令和9年2月

定例展 展示テーマ「漫画家 武良茂(水木しげる)と戦争」

春の企画展 令和9年3月～5月

新企画 展示テーマ「失明戦傷病者の労苦」(仮)

○春の企画展「戦傷病者と結核ー軍隊での罹患から戦後の闘病生活までー」

- ・開催期間：令和8年3月3日～5月31日(令和7年度 春の企画展)
- ・結核にかかった戦傷病者と家族の半生に焦点をあて、軍隊生活の中でどのように結核を発症してしまったのか、そして戦中・戦後の闘病生活の労苦について、軍隊結核に関連する資料などを交えながら紹介します。

○夏の企画展「戦傷病者就労への道」(仮)

- ・開催期間：令和8年6月2日～8月30日
- ・戦傷病者が社会に復帰するための就労について戦中と戦後に分けて解説します。
戦中は増加する戦傷病者の社会復帰に様々な支援等がありました。戦後は一変、戦傷病者にとって厳しい就労環境の時代が続きました。展示は、戦中の職業準備教育の様子を示す資料や、戦傷病者が使用していた仕事道具などを紹介します。

○秋の企画展「青年 武良茂(水木しげる)と戦争」

- ・開催期間：令和8年9月1日～11月29日
- ・水木しげる(武良茂)氏は、南方ラバウルで戦傷を負った傷痕軍人としても広く知られています。一兵士であった武良茂氏が体験した戦争は、後の漫画作品等のなかに数多く取り上げられています。秋の企画展では、応召から激戦地での体験、受傷の労苦を中心に、作品や個人資料を展示します。

○冬の企画展「漫画家 武良茂(水木しげる)と戦争」

- ・開催期間：令和8年12月1日～令和9年2月28日
- ・水木しげる(武良茂)氏は、南方ラバウルで戦傷を負った傷痕軍人としても広く知られています。一兵士であった武良茂氏が体験した戦争は、後の漫画作品等のなかに数多く取り上げられています。冬の企画展では、復員後、漫画家となり戦争体験を描くまでを中心に、作品や個人資料を展示します。

○春の企画展「失明戦傷病者の労苦」(仮)

- ・開催期間：令和9年3月2日～5月30日
- ・戦争によって目を負傷した戦傷病者は、両眼や片眼失明のほか、弱視による様々な労苦がありました。社会復帰のため鍼灸などの技術を身に付けるための訓練や、日常生活を送るための工夫など、人生の再出発とその後の困難について、失明戦傷病者の半生からその労苦を紹介するとともに、関連する資料を展示します。

(2) テーマ別展示

- ・収蔵資料をテーマごとに展示紹介するテーマ別展示コーナーでは、1テーマを3か月程度、年間4回を基本に、テーマを選定し、収蔵資料を展示します。

○第10回「戦傷病者と医療」

- ・開催期間：令和8年3月31日～6月28日
- ・野戦病院などの戦地での医療や、病院船、陸・海軍病院などを紹介し、軍医や衛生兵だった方から寄贈された衛生材料、医療器具などの資料を展示します。

○第 11 回「寄贈資料紹介（開館 20 周年記念展示）」

- ・開催期間：令和 8 年 6 月 30 日～9 月 27 日
- ・平成 18 年に開館以来、戦傷病者、ご家族、関連団体から様々な資料の寄贈を受け続けています。令和 8 年度は開館 20 周年を迎える年にあたるため、しょうけい館の設立の原点に立ち返り、戦傷病者と家族の経験した戦中・戦後の労苦のエピソードと資料を展示します。

○第 12 回「日本傷痍軍人会・妻の会」

- ・開催期間：令和 8 年 9 月 29 日～令和 8 年 12 月 27 日
- ・平成 25 年に解散した日本傷痍軍人会と妻の会の歴史や活動の紹介とともに、両会から寄贈された資料を展示します。

○第 13 回「作品に込めた労苦」

- ・開催期間：令和 9 年 1 月 5 日～4 月 4 日
- ・戦傷病者が療養生活中に描いた絵画や、職業画家として制作した絵画などを中心に、作品を展示します。

(3) 証言映像上映

- ・新たに証言映像を制作します。

可能な限り戦傷病者本人の証言の収録を目指しますが、軍歴等の記録があり、収録が可能な健康状態にある戦傷病者やその家族は、全国でも数少なくなっているため、ご家族も含め証言者の調査を行います。

(4) 3 館連携企画展（昭和 100 年記念展示）

○「戦傷病者の労苦を伝える 富山展（仮）」

- ・開催期間：令和 8 年 9 月 3 日～13 日の 11 日間
- ・開催場所：富山市民プラザ アートギャラリー
- ・戦傷病者とその家族の労苦を象徴的に伝える収蔵品を中心に、富山にゆかりのある戦傷病者の資料も併せて展示するとともに、証言映像の上映を行います。

2. 資料保存関連事業

- ・定期的に外部倉庫での資料整理作業をおこない、資料の梱包、状態確認を実施します。また、劣化の著しい資料は専門業者へ補修を依頼します。
- ・年に一回、出庫資料を中心に燻蒸処理を実施しています。

(1) 資料寄贈

- ・令和8年度も戦傷病者等の資料の寄贈を引き続き受け付けていく予定です。

(2) 資料の購入

- ・戦傷病者に関わりの深い軍医、衛生兵、看護婦や、陸・海軍病院関連資料を中心に、企画展及び証言映像などで活用出来るものを適宜購入しています。戦傷病者等労苦継承事業調査検討委員会報告書（平成16年）を参考に購入を検討していきます。

3. 教育啓発関連事業

(1) 次世代の語り部事業

- ・施設移転後より定期講話会（毎月第2日曜日）を実施し、定期イベントとして定着しました。従って、語り部の講話は、①団体見学者向け講話、②派遣講話、③定期講話会（一般来館者向け）の3種のプログラムとなっており、今年度も8月の特別講話会の実施も視野に堅実な活動を継続していきます。
- ・また、語り部の勉強会や、他団体の語り部の方々との意見交換会なども企画し、語り部の技術向上や、知見の深化拡大に寄与できるよう活動していきます。

(2) オンライン学習支援プログラム

- ・令和7年度より運用を開始しました、オンライン会議システムを用い学校としょうけい館をリアルタイムで結んで行う学習支援プログラムについては、より積極的に活用を促進を図っていきます。

4. 情報センター関連事業

(1) データベース・検索システム

- ・開館以来進めてきた寄贈資料の撮影やデータベースへの情報の入力作業をおこない、情報検索端末での資料の公開を進めていきます。
- ・図書室で図書が手に取りやすいように配架の見直しや、定期点検作業を引続き進め、情報検索端末で検索のし易さを向上させていきます。

5. 普及・広報事業

(1) ホームページ

- ・ホームページやSNS（X、フェイスブック）を活用して、展示会やイベント情報などの提供をしており、昨年の夏休み期間のイベントではSNS情報から多くの方々に来館いただきました。
- ・令和8年度も的確な情報提供を行い、語り部定期講話会などイベントの安定的な集客を確保するとともに、様々な館の活動なども発信していくよう引き続き検討していきます。

（2）しょうけい館広報

- ・旧来の会報から広報誌に変更し年2回「しょうけい館通信」を発行してきました。令和8年度においても、館の活動紹介などを中心に取り上げるなど広報機能を強化した紙面づくりを行い、学校や関連機関などへ幅広く配布していきます。